

## ネタニヤフ氏のスピーチ、イランの原子炉、そしてヨム・キップール

2009年9月27日 アシェル・イントレーター

今週、イスラエルのベニヤミン・ネタニヤフ首相は国連で歴史的なスピーチを行いました。下記のリンクにアクセスしてどうぞご覧下さい(合計 23 分)。なお、スピーチはダウンロードしやすくするため、3部に分かれています。(英語)

第一部: <http://www.youtube.com/watch?v=E1ozF7uGztc>

第二部: [http://www.youtube.com/watch?v=YA6s9xNS\\_fQ](http://www.youtube.com/watch?v=YA6s9xNS_fQ)

第三部: <http://www.youtube.com/watch?v=wSUmY7MtEe0>

最初に、ネタニヤフ氏はホロコーストを否定しようとする者に対して反論しました。彼はいくつかの明白な、そして簡単な証拠を挙げました。しかし、彼の論点はより深いものでした。私たちは歴史的な事実を信じているでしょうか。

第二に、彼はホロコーストを否定する同じ勢力が、現在イスラエルを破壊するよう呼びかけていることを述べました。イスラエルを脅迫するジハードの精神構造は他の諸国をも脅迫するのです。イランの現政権は選挙を盗み、自国の民を虐待し、世界中のテロに資金援助しています。これはイランに対する戦いではなく、命を尊いものとする文明に対抗し死を賛美する野蛮な行為に対する戦いなのです。

そして彼は「いわゆる」国連人権委員会の、ガザに関するレポートに反論しました。8年間イスラエルはガザから何百という、人の集まる場所をターゲットとしたミサイル攻撃に苦しめられました。国連の団体から一言もそれに対する批判がありませんでした。イスラエルが 8000 人の入植者をガザの自宅から退去させた後、ロケット攻撃は減るところか、10 倍に増えました。

何千もの電話やテキストメッセージ送付、ちらしが配布されて軍事目標から罪のないパレスチナ人を遠ざげようとしてきました。他の国ならばそのような自制を設けないでしょう。

レポートはテロ攻撃と、テロから市民を守るための民主政府の合法的な権利とを同等とみなすことによって正義を貶めました。もし他のテロリストたちも同じように市民たちを人間の盾として使うならば、彼らもまた免責されるということで、そのレポートは至る所にいるテロリスト集団を助長します。

ネタニヤフ氏は、国連は 1975 年にシオニズムが人種差別主義だという非難決議をした時から道徳的に「墮落した」と抗議しました。あなた方はイスラエルと共に立ちますか、それともテロリズムと共に立ちますかと、最終的に諸国が決める時が来ました。ホロコースト否定、イランが呼びかけるイス

ラエルの破壊、そしてガザに関する国連レポート、これら3つの問題について、ネタニヤフ氏は道徳的な境界線を引きました。それらは 1) 歴史的な真実に対して嘘、2) 死の賛美に対して命の尊さ、3) 道徳的に同等であることに対して正義です。

ユダヤ人は決して誰かの土地を征服した「よそ者」の征服者ではありません。イスラエルは私たちの祖国であり 3500 年間そうでした。国連の標語である世界平和のビジョンはイスラエルの地に 2800 年前に住んでいた預言者イザヤ(2 章)からとられました。シオンのヘブル人預言者から普遍的平和に対する希望を分かťことは不可能なのです。

ネタニヤフ氏は諸国に、現在の国際的なテロ勢力に対して勇気を持って立ち上がる(ヨシュア記1章に基づいて)ように呼びかけました。彼はまた、イスラエルは平和を求めており、パレスチナがイスラエルをユダヤ人の祖国として認めるという条件ならば、パレスチナの国を認めると述べました。ガザやレバノン南部のように、イランを後ろ盾とするテロリストの基地にしないため、ユダヤとサマリアの武装解除は必須です。

ネタニヤフ、オバマ、そしてアフマディネジャドは3つの異なった勢力を代表しています。ネタニヤフは契約を基とし、オバマは人気、そしてアフマディネジャドは悪を基としています。彼らは3つの互いに競争する「メシア的な」ビジョンを代表しています。ヘブライ的、人道主義的、そして悪魔的なビジョンです。ネタニヤフ氏はイエシュア(イエス)の信者ではありませんが、イスラエル政府の長として語っています。その地位はダビデの種の「長」としての役割であり、メシアの地上における御国を代表しているのです。

ネタニヤフ氏は平和(シャローム)と安全(オズ)両方を述べているヘブライの祝福(詩篇 29:11)でスピーチを締め括りました。主が世界中の真のクリスチャンに聞く耳を与え、この終わりの時に聖霊が教会に対して何を述べているのか(黙示録 2-3 章)を識別できるように。

## イランの原子炉

国連でスピーチが行われ、48 時間もたたないうちにイランの秘密の核兵器工場の容疑が明らかになりました。工場はシーア派過激派の本拠地であるクム近辺にあります。クムはアフマディネジャドの師の一人であるアヤトラ・タキ・イェザディの生地であり、彼は 2006 年 2 月の、イスラムに基づき核兵器を使わないという理由は何もないと書かれた宣言へ署名した人の一人です。(イディオット誌のバーグマン(注))

注: イスラエルの大手新聞イディオット・アハロノット(Yediot Aharonot)の軍事専門家であり報道記者であるローネン・バーグマン氏(Ronen Bergman)のこと。

この原子炉のニュースによって西洋諸国の一部はイランの核武装に対してより強固な姿勢で対応することで一致しました。鍵となる政治的な疑問として、ロシアと中国がどう反応するかです。過去彼らはイランに対する制裁を支持しようとしませんでした。

またこのニュースはいかにアフマディネジャドが嘘をつき、西洋の報道機関を笑いものになっているかを明らかにしました。例えばラリー・キングのショーでのインタビューで、彼が核兵器の開発を否定したことなどです(マアリヴ誌のアミール)。2007年11月、米国諜報特別委員会は、イランが核兵器を作ることをやめたと報告しましたが、アメリカのブッシュ大統領(イスラエルと共に)は、その報告書に反対しました。現在クムでの発電所の実態が明らかになったことで、それが嘘であったことが証明されましたが、すでにダメージが生じてしまっています。

### ヨム・キップール(大贖罪日)

今日(9月27日の日没後から)イスラエルはヨム・キップールを祝います。悔い改め、赦し、そして贖いという古代の祭司的な主題に加え、現代のイスラエルは1973年のヨム・キップール戦争と結びつけています。この戦争でイスラエルはエジプトとシリアから同時に攻め込まれました。イスラエルは絶滅を前にして、ひどい損害にもかかわらず奇跡的に勝利を収めました。

今日、最後の審判の日の計画の一つとして、イランは新しい弾道ミサイル「大預言者4号」のテスト発射を計画しています。

ヨム・キップールは古代の血の贖いと預言的な主の「大いなる恐るべき」日を象徴しています。これには贖いと終末論両方の主題を含んでいます。先週のラツパを吹き鳴らす祭りの時の、イスラエルの牧師たちによる悔い改めの祈りから国連でのネタニヤフ氏のスピーチ、そしてクムの原子炉が明らかになったことを通して、私は霊的な「ドミノ効果」を見ています。

どうか信仰と主への畏れをもって共に立とうではありませんか。主のみこころがイスラエルに、教会に、そして諸国になされますように！このヨム・キップールで私たちは今まで以上にこの地上を支配し君臨されるイエシュアの再臨が近づいていることを認識しています。